

区 分	専門科目—コミュニティ科学科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	人文地理学 A					
英 訳	Geography A					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 地理学の視点、概念、方法について、下記の授業計画に基づき講義を中心に授業を展開する。また、地図を用いた実習を行う。						
【授業の目的】 さまざまな分野からなる人文地理学の内容および地理学の視点、概念、方法を学ぶことを主なねらいとする。						
【到達目標】 人文地理学の内容および地理学の視点、概念、方法について学習し、その基本的な考え方について理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートおよび配付プリントを整理し内容を理解すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス 第 2回 都市の地理① 第 3回 都市の地理② 第 4回 都市の地理③ 第 5回 都市の地理④ 第 6回 村落の地理① 第 7回 村落の地理② 第 8回 地図作業（地形図を用いた土地利用図の作成）① 第 9回 地図作業（地形図を用いた土地利用図の作成）② 第 10回 土地利用の分析① 第 11回 土地利用の分析② 第 12回 知覚の地理① 第 13回 知覚の地理② 第 14回 地理学の資料と表現方法 第 15回 前期のまとめ						
【教科書】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書】 上野和彦ほか編著 2007 『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』（朝倉書店）						
【成績評価基準】 レポート（80%）、授業中の小レポート・小テスト（20%）で評価する。						
【メッセージ】 地理学に関心を持ち、積極的に取り組むことが望まれる。						

区 分	専門科目—コミュニティ科学科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	人文地理学 B					
英 訳	Geography B					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 地理学の視点、概念、方法について、下記の授業計画に基づき講義を中心に授業を展開する。						
【授業の目的】 さまざまな分野からなる人文地理学の内容および地理学の視点、概念、方法を学ぶことを主なねらいとする。						
【到達目標】 人文地理学の内容および地理学の視点、概念、方法について学習し、その基本的な考え方について理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートおよび配付プリントを整理し内容を理解すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス 第 2回 地理学の歩み 第 3回 地理学からみる世界① 第 4回 地理学からみる世界② 第 5回 地理学からみる世界③ 第 6回 生産の地理 (農業) ① 第 7回 生産の地理 (農業) ② 第 8回 生産の地理 (農業) ③ 第 9回 生産の地理 (工業) ④ 第 10回 生産の地理 (工業) ⑤ 第 11回 日本の工業① 第 12回 日本の工業② 第 13回 流通・交通の地理 第 14回 生活行動の地理 第 15回 後期のまとめ						
【教科書】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書】 上野和彦ほか編著 2007 『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』 (朝倉書店)						
【成績評価基準】 レポート (80%)、授業中の小レポート・小テスト (20%) で評価する。						
【メッセージ】 地理学に関心を持ち、積極的に取り組むことが望まれる。						

区 分	専門科目ーコミュニティ科学科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	地域社会学A					
英 訳	Region Sociology A					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 疲弊を続ける地方あるいは地域の活性化のため、さまざまな議論が繰り広げられている。それぞれの議論と地方・地域の実態や政策課題などについて理解を深める授業である。						
【授業の目的】 地方・地域の活性化についての著書・論文・論説等を読み、それぞれ論理・主張を理解し、受講生自身が当該問題について思索し、自らの見識・主張等を確立することを目的としている。						
【到達目標】 地方・地域の活性化についての著書等を読み、内容を正確に理解することが、第1の目標となる。そのうえで、自らの主張を練り上げ、表現することができるようになることが、第2の目標である。						
【準備学習(予習・復習)】 あらかじめ、配布した著書等のコピーを熟読し内容を理解するよう努めること。						
【授業計画】 第 1回 増田寛也レポート「地方消滅」論の登場とそれをめぐる論争について概説する。 第 2回 増田レポートの論理構造について、テキストを用い解説する（人口減少社会について）。 第 3回 前回に引き続き、増田レポートの論理構造について解説する（人口のダム機能論について）。 第 4回 前回に引き続き、増田レポートの論理構造について解説する（「選択と集中」論について）。 第 5回 前回に引き続き、増田レポートの論理構造について解説する（「選択と集中」論について） 第 6回 増田レポート批判論文の検討を行う（岡田知弘①） 第 7回 前回に引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（岡田知弘②） 第 8回 前回に引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（岡田知弘③） 第 9回 前回に引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（小田切徳美①） 第10回 前回に引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（小田切徳美②） 第11回 前回に引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（小田切徳美③） 第12回 レポート作成について説明を行う。 第13回 受講生にレポートの作成を行ってもらう。 第14回 受講生にレポートの作成を行ってもらう。 第15回 まとめ						
【教科書】 増田寛也編著『地方消滅』中公新書・2014年、岡田知弘「さらなる『選択と集中』は地方都市の衰退を加速させる」『世界』2014年10月号（岩波書店）、小田切徳美「『農村たたみ』に抗する田園回帰」『世界』2014年9月号（岩波書店）など						
【参考書】 なし						
【成績評価基準】 小テストを複数回実施するのでその成績（70%）と期末試験成績（30%）を成績評価の基本としつつ、受講態度評価を加味して総合的に判断する。						
【メッセージ】 読む力、思索する力、表現する力を身に付けていただくことに力を注ぎます。						

区 分	専門科目ーコミュニティ科学科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	地域社会学B					
英 訳	Region Sociology B					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 本授業では、地域政策のひとつの方向としての協同組合について学びます。協同組合の出発点や現在の各種協同組合の現状等について理解を深めます。						
【授業の目的】 協同組合と株式会社の違いや、協同組合運動の意味、現在の協同組合の実態などについて理解できることを目的とします。						
【到達目標】 協同組合論の基礎を学ぶことにより、社会における協同組合の意義について自らの考えを持つことを目標とします。						
【準備学習(予習・復習)】 小テストでこれまでの講義内容の理解度を確認するので、次回の講義までに講義内容を復習しておくこと。						
第 1 回 ガイダンス 第 2 回 現代における協同組合の意義 (1) 第 3 回 現代における協同組合の意義 (2) 第 4 回 協同組合の基礎知識 (1) 第 5 回 協同組合の基礎知識 (2) 第 6 回 協同組合の基礎知識 (3) 第 7 回 農業協同組合の現状 (1) 第 8 回 農業協同組合の現状 (2) 第 9 回 農業協同組合の現状 (3) 第 1 0 回 協同組合運動の歴史・課題 (1) 第 1 1 回 協同組合運動の歴史・課題 (2) 第 1 2 回 協同組合運動の歴史・課題 (3) 第 1 3 回 協同組合運動の歴史・課題 (4) 第 1 4 回 まとめ1 第 1 5 回 まとめ2						
【教科書】 なし						
【参考書】 河野直践編著『協同組合入門』（創森社、2006年）						
【成績評価基準】 小テストを複数回実施するのでその成績（70%）と期末試験成績（30%）を成績評価の基本としつつ、受講態度評価を加味して総合的に判断する。						
【メッセージ】 これからどんな社会をつくるのかという根本的な問いが、本講義の前提です。						

区 分	専門科目ーコミュニティ科学科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	都市社会学A					
英 訳	Urban Sociology A					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 都市社会学Aでは、都市社会学の展開を追いながら基本的な概念について講述する。						
【授業の目的】 都市社会学の基本的な諸概念について理解を深めるとともに、都市や都市問題に関して様々な点から考察することを目的とする						
【到達目標】 都市社会学の基本的な諸概念を十分に理解し、「都市」をとらえるための自分なりの視角を習得することを目標とする						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 シカゴ学派 (1) : 概略、調査・モノグラフ 第 3回 シカゴ学派 (2) : 社会事象の地図化 第 4回 シカゴ学派 (3) : アーバニズム論の展開 第 5回 フィッシャーの下位文化論 第 6回 第三空間論と正常人口の正常生活 第 7回 結節期間と専門処理システム 第 8回 日本における地域移動の動向 第 9回 地域移動に関する諸理論 第10回 同郷団体 第11回 町内会と地域集団 第12回 人口の流入と地域社会の変容 第13回 現代の都市をめぐる議論 (1) 第14回 現代の都市をめぐる議論 (2) 第15回 まとめ						
【教科書】 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
【参考書】 授業の際に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 学期末の試験 (80%) と授業中の小レポート (20%) で成績を評価する。						
【メッセージ】 先人たちが様々な概念や理論によって何をとらえようとしたのか考えてみよう。						

区 分	専門科目ーコミュニティ科学科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	都市社会学B					
英 訳	Urban Sociology B					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 前半は、都市社会学などのネットワーク研究を取り上げ、人間関係や人々の意識について実証的に考察を行う。後半は、社会事象の空間分布から、「距離」や「近接性」といったものが人々の生活に与える影響を考察する。また、実際にGISのソフトウェアを使って、既存の統計データを地図化する作業も行う。						
【授業の目的】 Aでの学習内容をベースとしつつ、特に「ネットワーク」と「空間」の2つの側面から都市について考察を行うことを目的とする。						
【到達目標】 ・ネットワークの視点から社会をとらえることができるようになること ・実際のデータを用いて都市の空間構造について考察できるようになること						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること ・GISのソフトウェアを用いた授業については、遅くとも次回の授業までには課題を終えておくこと						
【授業計画】 第 1 回 インTRODクシON 第 2 回 ネットワーク論の基礎 第 3 回 ソシオセントリック・ネットワーク 第 4 回 エゴセントリック・ネットワーク 第 5 回 スモールワールドと弱い紐帯の強さ 第 6 回 スケールフリーとハブ 第 7 回 家族役割とネットワーク 第 8 回 都市化とネットワーク 第 9 回 中間まとめ 第10回 都市の空間構造 (1) 第11回 都市の空間構造 (2) 第12回 GIS ソフトによる空間構造の分析 (1) 第13回 GIS ソフトによる空間構造の分析 (2) 第14回 GIS ソフトによる空間構造の分析 (3) 第15回 まとめ						
【教科書】 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
【参考書】 授業の際に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業中の試験 (40%) と学期末のレポート (40%)、授業中のレポート (20%) で成績を評価する。						
【メッセージ】 都市社会学に関心がある履修者だけでなく、ネットワーク研究や社会調査に関心のある学生にも有意義な授業にしたいと考えている。						

区 分	専門科目ーコミュニティ科学科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	環境社会学A					
英 訳	Environmental Sociology A					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 環境に深く依存する農業という産業の特質について理解を深めるとともに、現在の農協改革をはじめとした農政改革の動向について学び、あるべき農業・農村像についての認識を深める授業である。						
【授業の目的】 農協改革について学ぶ。農協改革についての著書・論文・論説等を読み、それぞれ論理・主張を理解し、受講生自身が当該問題について思索し、自らの見識・主張等を確立することを目的とする。						
【到達目標】 農協改革についての著書等を読み、内容を正確に理解することが、第1の目標となる。そのうえで、自らの主張を練り上げ、表現することができるようになることが、第2の目標である。						
【準備学習(予習・復習)】 あらかじめ、配布した著書等のコピーを熟読し内容を理解するよう努めること。						
【授業計画】 第 1回 山下一仁「農協解体」論の背景について概説する。 第 2回 山下一仁「農協解体」論の論理構造について、テキストを用い解説する。 第 3回 前回到引き続き、山下一仁「農協解体」論の論理構造について解説する。 第 4回 前回到引き続き、山下一仁「農協解体」論の論理構造について解説する。 第 5回 前回到引き続き、山下一仁「農協解体」論の論理構造について解説する。 第 6回 太田原高昭「農協の大義」の背景について解説する。 第 7回 太田原高昭「農協の大義」の論理構造について解説する。 第 8回 前回到引き続き、太田原高昭「農協の大義」の論理構造について解説する。 第 9回 前回到引き続き、太田原高昭「農協の大義」の論理構造について解説する。 第10回 前回到引き続き、太田原高昭「農協の大義」の論理構造について解説する。 第11回 農政改革の全体像について解説する。 第12回 レポート作成について説明を行う。 第13回 受講生にレポートの作成を行ってもらう。 第14回 受講生にレポートの作成を行ってもらう。 第15回 まとめ						
【教科書】 山下一仁『農協解体』宝島社・2014年、太田原高昭『農協の大義』農文協ブックレット・2014年						
【参考書】 なし						
【成績評価基準】 小テストを複数回実施するのでその成績(70%)と期末試験成績(30%)を成績評価の基本としつつ、受講態度評価を加味して総合的に判断する。						
【メッセージ】 読む力、思索する力、表現する力を身に付けていただくことに力を注ぎます。						

区 分	専門科目ーコミュニティ科学科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	環境社会学B					
英 訳	Environmental Sociology B					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 環境に深く依存する農業という産業の特質について理解を深めるとともに、現在の農協改革をはじめとした農政改革の動向について学び、あるべき農業・農村像についての認識を深める授業である。						
【授業の目的】 農業問題について歴史的に学ぶ。特に、資本主義の時代になって現われた農業と資本主義との関係について、理論的な整理を重視して理解することを目的とする。						
【到達目標】 農業問題とは何か、歴史・社会の中でのその意義を理解することが基本目標である。						
【準備学習(予習・復習)】 あらかじめ、配布した著書等のコピーを熟読し内容を理解するよう努めること。						
【授業計画】 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 地租改正と明治農法 第 3 回 明治・大正期の農業と地主制度 第 4 回 農地改革と農地法 第 5 回 農業基本法と近代化農政 第 6 回 食糧管理制度の変遷・変容 第 7 回 食料・農業・農村基本法と農業環境政策 第 8 回 食料問題 (1) 第 9 回 食料問題 (2) 第 10 回 農産物価格政策・直接支払政策 (1) 第 11 回 農産物価格政策・直接支払政策 (2) 第 12 回 農業構造問題 (1) 第 13 回 農業構造問題 (2) 第 14 回 まとめ (1) 第 15 回 まとめ (2)						
【教科書】 なし						
【参考書】 田代洋一『農業・食料問題入門』大月書店・2012年						
【成績評価基準】 小テストを複数回実施するのでその成績(70%)と期末試験成績(30%)を成績評価の基本としつつ、受講態度評価を加味して総合的に判断する。						
【メッセージ】 農業・環境・社会について、歴史的かつ理論的に勉強します。						

区 分	専門科目ーコミュニティ科学科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	地域連携論A					
英 訳	Regional Collaboration A					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 地域社会から、各種集団・組織・団体、行政、企業、学校などにわたって展開してきた、人と組織の関係性について、社会貢献・地域連携の歴史と理論として、社会発展との関連で理解することを通じて、その問題を把握し課題を展望する。授業は講義・教材(写真やビデオなど)の視聴と討論で構成する。						
【授業の目的】 地域・企業・行政・研究教育機関の各領域と領域間で展開してきた社会貢献・地域連携の歴史と理論について、基本的な枠組みを理解する。						
【到達目標】 社会貢献・地域連携の歴史と理論の基本的な枠組みをすることを通じて、社会貢献・地域連携の主体となるための理論を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 日常的に、社会貢献・地域連携に関するテレビのドキュメンタリーやニュースなどの番組を見たり、新聞や雑誌などを読み、配付資料に基づいて授業内容を把握し、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1回：共同・協同・協働 第 2回：社会発展とネットワークーSocial Capital の意義 第 3回：組合・学生運動・組織と連帯 第 4回：産官学共同・企業メセナ・フィランソロピー・CSR 第 5回：セツルメント・患者組織と患者団体・公害運動と環境活動 第 6回：地域医療・地域福祉 第 7回：国際連盟と国際連合・国際協力 第 8回：国際交流と国際化 第 9回：まちづくりとむらおこし 第10回：都市農村交流・地域間交流・国際交流 第11回：主体と文化の多様性 第12回：ネットワークと共生 第13回：多面的機能と多面的活動 第14回：大学や研究・教育機関の連携組織 第15回：社会貢献と地域連携						
【教科書】 使用しないが、資料を適宜提供する。						
【参考書】 適宜紹介する。						
【成績評価基準】 レポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【メッセージ】 ボランティア活動や社会人になってからの企業活動にも関わる考え方なので、ぜひ学んでもらいたい。						

区 分	専門科目ーコミュニティ科学科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	地域連携論B					
英 訳	Regional Collaboration B					
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 人や組織が地域社会の中で、経済や社会、教育や福祉、自然環境・社会環境、まちづくり、地域開発などの地域の問題・課題にどのように取り組んでいるのかについて、社会貢献・地域連携という観点でその実態と問題・課題・展望を説明する。授業は講義・教材(写真やビデオなど)の視聴と討論で構成する。						
【授業の目的】 各種・各地域の地域連携の事例研究(ケース・スタディ)などを通じて、地域社会の問題や課題への取り組みの論理を理解し、今後の方向を展望する。						
【到達目標】 社会貢献・地域連携の実態と問題・課題・展望について、地域・企業・行政・研究教育機関の各領域と領域間で展開してきた実態の事例研究を通じて、社会貢献・地域連携の主体となるための力量を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 日常的に、社会貢献・地域連携に関するテレビのドキュメンタリーやニュースなどの番組を見たり、新聞や雑誌などを読み、配付資料に基づいて授業内容を把握し、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1 回：市民社会の連携① 第 2 回：市民社会の連携② 第 3 回：産業社会・組織と連携① 第 4 回：産業社会・組織と連携② 第 5 回：地域医療・地域福祉・公害問題① 第 6 回：地域医療・地域福祉・公害問題② 第 7 回：国際社会と連携① 第 8 回：国際社会と連携② 第 9 回：まちづくりと地域交流① 第 10 回：まちづくりと地域交流② 第 11 回：多様性と共生の地域連携① 第 12 回：多様性と共生の地域連携② 第 13 回：大学・教育機関と地域連携① 第 14 回：大学・教育機関と地域連携② 第 15 回：地域連携の担い手						
【教科書】 使用しないが、資料を適宜提供する。						
【参考書】 適宜紹介する。						
【成績評価基準】 レポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【メッセージ】 ボランティア活動や社会人になってからの企業活動にも関わる事例研究なので、ぜひ学んでもらいたい。						